コロナウイルス文献情報とコメント(拡散自由)

2023年4月7日

JAMA:COVID-19と季節性インフルエンザの死亡リスク比較：入院患者：アメリカ退役軍人2022～23年期データの解析

【松崎雑感】

この3年間の世界中の公衆衛生対策の奮闘のおかげで、COVID-19は季節性インフルエンザよりも「僅か1.5倍死亡率が高い」と言うレベルまで抑え込むことができました。COVID-19ウイルスの弱毒化による死亡リスク低下もありますが、ワクチン効果が極めて大きな貢献をしてきたと考えられます。ワクチン接種がなければ、COVID-19の死亡リスクは季節性インフルエンザの数倍になっていたかもしれません。

松崎道幸　道北勤医協ながやま医院　matsuzaki-m@dohoku-kinikyo.or.jp

COVID-19と季節性インフルエンザの死亡リスク比較：入院患者：アメリカ退役軍人2022～23年期データの解析

Xie Y, Choi T, Al-Aly Z. Risk of Death in Patients Hospitalized for COVID-19 vs Seasonal Influenza in Fall-Winter 2022-2023 [published online ahead of print, 2023 Apr 6]. *JAMA*. 2023;10.1001/jama.2023.5348. doi:10.1001/jama.2023.5348

パンデミック初期に、入院から30日以内のCOVID-19感染者の死亡リスクは、季節性インフルエンザによる入院患者の5倍だった。その後、COVID-19ウイルスの毒性の低下、治療、ケア、ワクチンや自然感染免疫レベルの増加によりCOVID-19死亡リスクも減少し、インフルエンザ死亡リスクも変化した。今回の調査で、2022～23年期のCOVID-19死亡リスクは、引き続き季節性インフルエンザよりも高いことが明らかになった。

方法

米国退役軍人省の医療データベースを解析。COVID-19あるいはインフルエンザ感染により入院した人々の予後を比較した。両方に同時感染していた143名は解析から除外した。年代別、ワクチン接種状態別、自然感染歴別予後解析も行った。

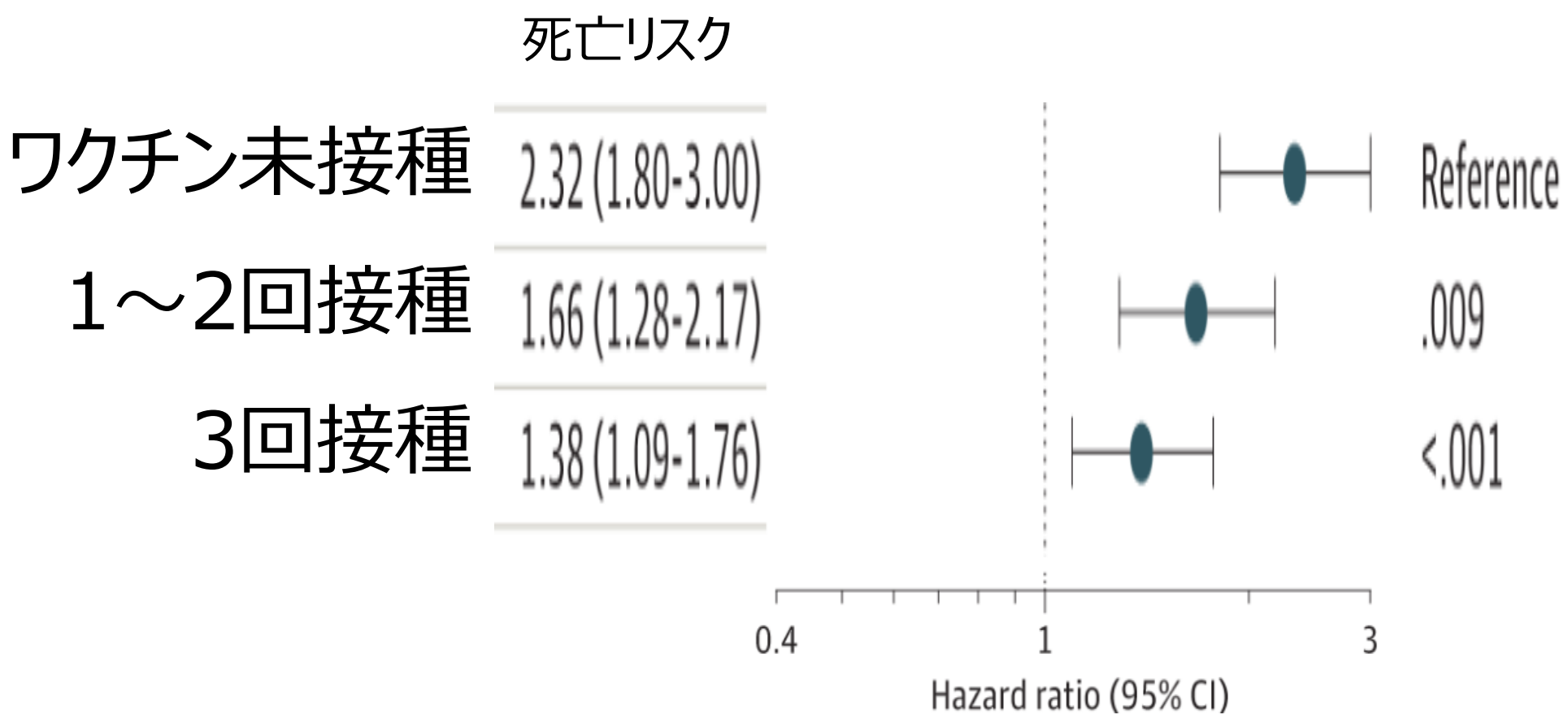
結果

調査対象期間中に8996名がCOVID-19で入院し、538名が30日以内に死亡。インフルエンザで2403名が入院、76名が死亡した。両群の年令分布と性別はほぼ均質だった（平均73才、95%が男性）。

入院から30日以内の死亡率はCOVID-19で5.97%、インフルエンザで3.75%。死亡リスクの絶対差は2.23%だった（有意）。入院した場合のCOVID-19死亡リスクは、インフルエンザの1.61倍だった（有意）。

ワクチン未接種者と比較して、接種回数が多いほど、COVID-19死亡リスクが低下していた（次スライド）。

ワクチン接種回数別死亡リスク：未接種者との比較



考案

退役軍人局の医療データによれば2022～23年期の入院患者のCOVID-19死亡リスクはインフルエンザよりも有意に高かったことが明らかとなった。COVID-19の入院患者総数は、インフルエンザより2～3倍多かったことも勘案してこの結果を解釈する必要がある。ただし、COVID-19の死亡リスクは2020年には17～21%だったが、今回は6%と低下していた。一方インフルエンザ死亡リスクは3.8%から3.7%とほぼ不変だった。COVID-19のワクチン、集団免疫、治療ケアの進歩などが死亡リスク低下に寄与していたものと考えられる。

ワクチン未接種者は、接種完了者、ブースター接種追加者よりも死亡リスクが明らかに高かった。COVID-19死亡を減らすには、ワクチン接種が重要であることを示している。

この研究のリミテーションは、解析対象が高年齢の退役軍人男性に偏っていることである。また、入院患者以外は検討されてない。また、個別の死因についても検討されておらず、交絡因子の調整が十分とは言えない。